

編集後記

日本常民文化研究所の伝統は、海洋文化と物質文化の研究である。それを基盤とする国際常民文化研究機構も、その分野での研究ネットワーク構築を目的としている。本号の投稿論文にも、その傾向がよく表れている。

海洋文化と物質文化の双方に関わる対象は、「船」の研究であろう。赤羽氏と後藤氏の論考は、いずれも船に関わる。海洋文化の重要な研究対象は、漁業である。片岡氏、小岩氏、中居氏、末田氏の論考は漁業関連であり、とくに小岩論文は日本時代における台湾の漁業を扱い、東アジアへの展開を示している。

海外とくに東アジアとの研究交流も、本機構の重要な目的となっており、金氏と角南氏の論考がその地域と関連するものである。

本機構が発足して4年目が過ぎ、次第に本機構の研究方向が、論考からも読み取れるようになってきた。寄稿された方々には、深く感謝します。(小熊 誠)

神奈川県 国際常民文化研究機構 年報 4
Annual Report No.4
International Center for Folk Culture Studies
Kanagawa University

発行日	2013年9月30日
編集・発行	神奈川県 国際常民文化研究機構 〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1 http://icfcs.kanagawa-u.ac.jp
印刷	共立速記印刷株式会社
雑誌コード	ISSN 2185-3339